

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	札幌あけぼの園ドレミ♪		
○保護者評価実施期間	令和6年 9月 24日	～	令和6年 10月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数) 38
○従業者評価実施期間	令和6年 9月 24日	～	令和6年 10月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2024年11月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	工作、運動、おやつ作りなど毎日違う活動を取り入れておりどの日に利用しても楽しめるような内容になっている。 また保護者の方から楽しんで通っていると言う声を多く頂いている。	活動表を考える際に同じ「工作」でも利用児童に合った内容を考え、毎日利用している児童にも飽きさせない工夫をしている。	内容に偏りが出たりマンネリ化しないよう日々職員と情報共有をし、今の児童に合った内容または次のステップに進めるような活動内容を考えていく。
2	職員の中には保育士の資格を持っている方や音楽に特化している方など、様々な経験をされた職員が働いていること。	色々な職員からの情報共有を大事にし、日々の療育へ活かしている。	今後資格を取る予定の職員もいるため資格を十分に活かせる環境を整えていくこと。
3	中学生や高校生の児童まで利用している。保護者だけでなく利用児童本人から進路のことや友人関係の悩みなど相談を受けアドバイスを行っている。	該当する児童だけでなく周りの児童への配慮もするなど相談しやすい環境を整えたり、保護者への情報共有も行い同じ方向性で療育を行えるようにしている。	相談を受ける職員は軽はずみな発言をしないよう職員同士の情報共有をしっかりとし職員間でも同じ方向性で対応ができるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内の構造上、死角が生まれる。 また、バリアフリーではないため足の不自由な児童が階段の上り下りをする際に危険が生じる場合もある。 玄関やトイレも同様。	一軒家を改造したこともあり療育として使う場合に不都合が生じる場合もある。 その都度、職員間で相談し環境を見直し自分たちでできることは行っている。	今ある環境の中で児童が不安にならずに楽しく過ごすことができるよう、変わらず自分たちでできることは行い、難しいことは専門の方へ相談をする。
2	地域との関わりが少ない。	施設の建物に2施設あるため未就学から小学生、中学生、高校生までの異年齢の交流はもてている。	施設内での交流だけでなく以前は近所の方との交流も持っていたため交流が途切れないようにしていく。
3	朝ミーティングなどで話した内容を非常勤の職員や休みの職員へうまく共有できている時とそうでない時がある。	伝える職員に偏りが生じているため。	非常勤の職員へ共有されているかの確認を常に行い確認し、不足のないように徹底する。